

| | | | | |
|--|------------------------|---|------------|---------------|
| 招 集 期 日 | 平成 2 7 年 9 月 2 4 日 (木) | | 開会の場所 | 教育委員室 |
| 開会の時刻 及び宣告者 | 開会の時刻 | 午後 1 時 3 0 分 | 開 会 者 | 委 員 長 |
| | 閉会の時刻 | 午後 2 時 5 5 分 | 閉 会 者 | 委 員 長 |
| 委 員 出 席 状 況 | | | | |
| 氏 名 | 摘 要 | 氏 名 | 摘 要 | |
| 石 井 康 三 | 出 席 | 春 山 教 子 | 出 席 | |
| 岩 本 一 盛 | 出 席 | 小 島 敏 之 | 出 席 | |
| 古 市 明 | 出 席 | | | |
| 議 事 参 与 者 及 び 説 明 の た め の 出 席 者 | 山畑学校教育部長 | 斉藤生涯学習部長 | 岡戸教育総務課長 | 栗原学校教育課長 |
| | 米川学校給食センター所長 | 池澤生涯学習課長 | 赤坂スポーツ振興課長 | 加藤図書館長兼郷土資料館長 |
| 書 記 名 | 教育総務課総務係 横山 | | | |
| 会議事件名 | て ん 末 | | | |
| 開 会 | | 9 月 定 例 教 育 委 員 会 を 開 会 | | |
| 日 程 第 1 前 回 会 議 録 の 承 認 | 石井委員長 | 教育委員会の会議は、原則公開である。今回の日程で非公開案件はないため、すべて公開することについて諮った。 異議なしの声あり。 | | |
| | 石井委員長 | 前回の定例教育委員会の会議録の承認について諮った。 異議なしの声あり。 | | |
| | 石井委員長 | 前回会議録は、承認された旨宣した。 | | |
| 日 程 第 2 報 告 事 項 1 平成 27 年 度 全 国 学 力 ・ 学 習 状 況 調 査 結 果 の 概 要 に つ い て | 石井委員長 | 報告事項 1 から 8 について、学校教育課長より説明を求めた。 | | |
| | 学校教育課長 | 小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に、4 月 21 日に実施された。まず、国語及び算数・数学の A 問題は知識に関する問題、B 問題は活用に関する応用問題である。正答率について小学校は、A 問 | | |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|--|---------------|--|
| <p>報告事項2 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査結果の概要について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>題は全国より少し低く、B問題はかなり低い傾向である。中学校に関しては、全てにおいてかなり低い。また、理科に関しては、小学校、中学校共に少し低い状況である。中学校で全体的に正答率が低いことについては、現在の2、3年生は小学校の時に学力が追い付かなかった学校、学年が非常に多く、基礎・基本が定着していない部分が中学校に来ても伸び悩む原因になっていると分析している。質問紙調査結果では、小学校、中学校共、学校のきまりを守っているかという質問に関して、「守っている」と回答した数が全国や県の平均より高い結果となっており、学校が落ち着いてきた様子が見られる。また、それぞれの教科の「勉強は大切であると思う」という回答は平均より高いが、「勉強が好き」という回答は平均より低い。この結果から見ると勉強はわからないが、勉強が大切であるという心は育ってきたと言える。小学校からしっかりと基礎、基本を固めていけるよう、進めていきたい。</p> <p>4月16日に実施された。小学校4年生から6年生と中学校1年生では、平均正答率に近いが、全県と比べやや低い状況。中学校2、3年生は、報告事項1で述べたとおりかなり低い状況である。中身をみていくと、基礎・基本の問題は県の平均よりも少し劣る位であるが、国語の記述問題は、どの学年も全県平均点よりもかなり低く、算数・数学でも数学的な考え方は県平均よりもかなり低い。基礎、基本が固まらなると応用問題も伸びないが、基礎・基本が良い結果が出始めているところであるため、引き続き学力向上対策を講じて行きたい。</p> |
| <p>報告事項3 小・中学校における1学期の表彰の結果について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>主なものについて紹介する。羽生北小学校の児童が硬筆展にて県知事賞、手子林小学校の児童が埼玉県書写書道教育連盟賞を受賞した。中学校の体育大会では、県大会に出られる部活が増えてきている。野球は東中学校が地区優勝、西中学校が2位、サッカーは西中学校が優勝、東中学校が2位。男子バレーは西中学校が優勝、南中学校が2位という結果であり、いずれも県大会に出場した。その他にも多数県大会に出場している。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|---|---------------|--|
| <p>報告事項4 1学期におけるいじめ・不登校等について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>1学期の交通事故以外の事故は5件。発生件数は昨年度と同数である。2件目の暴力行為については、教師の指示に従わず身勝手な行動をした生徒がいたが、しっかり指導が入り家庭も協力して、学校を挙げての対応ができています。4件目のいじめは、適切に指導し解決済みです。5件目のSNS被害は、ツイッターで画像が無断使用され、そこに本人が嫌がるような文字が書かれるというものであり、現在警察の捜査が入っています。このような事件への対策として、羽生市校長会と羽生市PTA連合会の連名で携帯電話及びスマートフォンの使用原則やインターネット利用について注意喚起を呼びかける手紙を各家庭に送ることにしました。不登校といじめの件数については、小学校で3名であり昨年より1名増えています。中学校では14名で、昨年より8名減っており、丁寧な教育相談や家庭訪問の成果が出ていると考えています。いじめについては、ゼロであるべきですが、小学校で1件発生しています。</p> |
| <p>報告事項5 平成27年度市内で発生した小中学生に関わる交通事故（8月末現在）について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>交通事故は4件発生しています。多い年であると、月に2、3件発生したこともあったが、昨年に引き続き今年は少ない件数です。入院を要するような大きな事故も無く、今後の交通事故発生ゼロを目指しているところである。</p> |
| <p>報告事項6 携帯電話所有率の推移について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>以前は小学生の携帯電話の所有は埼玉県の平均より低かったが、平均に近づいてきた事がこの数値から読み取れる。各家庭の方針もあり、持つてはいけないということもなかなか言えないが、どのように持たせるか、指導を進めている。</p> |
| <p>報告事項7 平成27年度羽生地区青少年健全育成地域フォーラムの開催について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>青少年の非行問題や不登校の問題解決については羽生市生徒指導委員会等各団体と協力をしながら、子ども達の青少年健全育成を進めている所である。今年は11月6日、主題「みんなで育てようすこやかな青少年」として開催する。実践発表校は、三田ヶ谷小学校、須影小学校及び中学校3校、加えて羽生実業高校。講演は静岡大学グローバル企画推進室、特任准教授、青山氏である。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|---|-----------------|--|
| <p>報告事項8 平成27年度羽生市人権教育研究集会の開催について</p> | <p>学校教育課長</p> | <p>教育委員会と人権推進協議会、羽生市人権推進課の共催で人権教育の実践について推進を図っていく集会である。分科会ごとに研究に取り組み、テーマは、第一分科会では同和問題、第二分科会では学校における子どもの人権、第三分科会ではその他の人権課題（多種多様な人権の課題）、第四分科会はPTA で取り組む人権課題となっている。</p> |
| <p>報告事項9 給食センターによる学校訪問について</p> | <p>給食センター所長</p> | <p>学校給食センターでは毎年、栄養教諭、事務職員、調理委託会社職員が小中学校 14 校を訪問し、給食時間前に食育の授業を行い、食事の大切さ、作る側の苦労話や給食の食材に地元産の農産物も使われていることを伝え、郷土を愛する気持ちや給食に関わっている人々への感謝の気持ちを養ってもらおうと企画している。あわせて、配膳室の衛生管理状況や配膳から片づけまで安全管理を確認し、安心して美味しい給食を提供するための一助とする。期間は10月13日から来年の1月26日まで、月に3校から4校訪問する予定である。</p> |
| <p>報告事項10 平成27年度団塊世代支援講座の結果について</p> | <p>生涯学習課長</p> | <p>昨年までは野菜作りを行っていたが、今年度はリユース（再利用）工作講座として、廃材を再利用した木工を行い、作ったものを学校や公民館等に寄付することで、地域貢献や仲間づくりを図ることをねらいとした。8月6、7日に羽生南小学校図工室を会場として開催した。参加人数は7名、内女性が3名であった。講師は青鹿輝雄氏、材料となる廃材は清掃センターから持ってきた。参加者からは、電動工具の使い方や仕上げの仕方等が理解できたという声もあり、生涯学習の面では非常に良かったと思われる。</p> |
| <p>報告事項9 給食センターによる学校訪問について</p> | <p>石井委員長</p> | <p>報告事項9について、給食センター所長より説明を求めた。</p> |
| <p>報告事項10 平成27年度団塊世代支援講座の結果について</p> | <p>石井委員長</p> | <p>報告事項10から12について、生涯学習課長より説明を求めた。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|--|----------|--|
| 報告事項11 第29回羽生市高齢者のつどいの開催について | 生涯学習課長 | 10月29日に羽生市体育館を会場として開催する。対象者は、各公民館で開催している高齢者大学の受講生等約300名。種目はシャトル飛ばしや玉入れ等6種目である。昨年は316名参加し、広い交流が図れたため、今年度も同様に行いたい。 |
| 報告事項12 「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」見学会の結果について | 生涯学習課長 | 8月22日に開催した。参加人数は27名、三田ヶ谷農村センターに集合し、ムジナモ自生地に向かった。8月上旬に各報道機関にムジナモの状況が良好であると報道があったためか、市外からの20名の参加があった。暑かったが、非常に熱心に見学をしていただき、多くの質問が出た。ムジナモのつぼみを写真撮影する等、興味を持っていただいた。9月1日の埼玉新聞にも記事が掲載された。 |
| | 石井委員長 | 報告事項13について、スポーツ振興課長より説明を求めた。 |
| 報告事項13 平成27年度トップアスリート育成事業 羽生市少年野球教室の結果について | スポーツ振興課長 | 6月6日、7月25日の2日間に渡り開催した。会場は、羽生市中央公園野球場及び羽生市体育館で、元プロ野球選手の黒江氏他4名の講師に来ていただいた。両日とも天候に恵まれたが、2日目は猛暑であったため、休憩を小まめに取りながら行った。毎回講師の先生方により、当日の指導内容や指導方法を熱心に打合せしていただき、教室に臨んでいる。2日目の走塁指導では陸上競技400mハードルの元トップアスリートに指導いただいた。また、黒江氏により、指導者を対象に指導者講習も実施した。 |
| | 石井委員長 | 報告事項14から17について、図書館兼郷土資料館長より説明を求めた。 |
| 報告事項14 「聞かせ屋。けいたろう絵本の読み聞かせ会」の開催について | | 11月15日の午前中に開催する。内容については、乳児の部、幼児の部、小学生から大人の部の3つに分けた形で行う予定である。昨年度は143名と多くの方に参加いただいた。今回も多数の参加があるよう周知を図りたいと思う。 |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|---|-------------------|---|
| <p>報告事項15 企画展「埼玉の鳥と生きもの」の結果について</p> | <p>図書館兼郷土資料館長</p> | <p>7月18日から8月31日までの39日間開催し、入館者数は3,572名であった。埼玉県立自然の博物館から約130点のはく製等を借りて展示した。資料返却時に自然の博物館と来年も企画したい旨を話し、展示に協力を得られるよう依頼した。</p> |
| <p>報告事項16 「親子で昆虫を調べてみよう！」の結果について</p> | <p>図書館兼郷土資料館長</p> | <p>報告事項15の企画展関連事業として8月2日に埼玉水郷公園にて、自然の博物館の職員等3名を講師として招き実施した。10時から12時のとても暑い時間であったが、34名もの参加があった。講師が3名いたことで、参加者からの質問にも十分に対応できた。</p> |
| <p>報告事項17 ふるさと講座Ⅱ「郷土の偉人に学ぶ～清水卯三郎～」の開催について</p> | <p>図書館兼郷土資料館長</p> | <p>12月6日の1時30分から3時30分まで、ワークヒルズ羽生1階大会議室を会場として開催する。昨年、「歴史にかくれた大商人～清水卯三郎～」を執筆された埼玉県職員の今井氏を講師として招く予定である。11月広報への掲載等、より多くの方に参加いただけるように告知していきたい。</p> |
| | <p>石井委員長</p> | <p>その他の報告事項を求めた。</p> <p>なし</p> |
| | <p>石井委員長</p> | <p>報告事項に関して質問・意見を求めた。</p> |
| | <p>古市委員</p> | <p>報告事項17について、清水卯三郎の本を出版された今井氏を招き、非常にタイムリーな企画であると思う。数年前に、卯三郎氏の没後100年の企画があったが、もうしばらくすると生誕200年となる。今回の事業もひとつのステップとして、息の長い事業にしていだければと思う。「清水卯三郎を研究・顕彰する会」があるが、一生懸命勉強した成果を市民に還元していただくため、郷土資料館や図書館、教育委員会等への連絡ができるようになれば、</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|---|---|
| | <p data-bbox="480 479 596 508">図書館兼郷土資料館長</p> <p data-bbox="480 813 596 842">春山委員</p> <p data-bbox="480 1196 596 1225">学校教育課長</p> <p data-bbox="480 1771 596 1800">春山委員</p> | <p data-bbox="619 284 1442 412">研究結果を市民も知ることができる。「研究・顕彰する会」は民間のグループであると思うが、横に繋げて大きな力にしていくことができると思う。</p> <p data-bbox="619 479 1442 748">今回の事業は「清水卯三郎を研究・顕彰する会」の協力をいただく形となっている。今井氏が本を出版する際、資料の確認にいられたときも、「研究・顕彰する会」を紹介し、出版の手助けとなった。今回の講座の開催については、「研究・顕彰する会」をはじめ、多岐にわたり協力いただくが、清水卯三郎を多く広めるため、告知をしたいと思います。</p> <p data-bbox="619 813 1442 1128">報告事項1と2の学力テストに関して、中学2、3年生の正答率がかなり低いですが、それぞれの学校で努力しており、改善に向かっているとの報告であった。資料を見ると、下がっているところが沢山ある気がするが、これはどのようなことか。また、特に中学2、3年生のマイナスが大きく、課題としてこれから何かしなくてはいけないのではないか。中学3年生の英語は特に県平均との差が大きく、何か原因が分かっていたら教えていただきたい。</p> <p data-bbox="619 1196 1442 1704">小学校からの基礎・基本はとても大事であり、今の中学校は3校とも落ち着いて授業ができている状況であるが、過去小学校中学年、高学年で落ち着いて授業できない状況だった学年がある。その時期の基礎・基本がまるまる抜けているため、せっかく子ども達がやる気になっても、そう簡単にいかない部分がある。平成26年度との比較について、実際は対象となる学年が違うため、下がることもやむを得ないと考えるが、今年初めて埼玉県の学力・学習調査が行われ、今後の変化を見て行くことができることをチャンスと捉え、指導を進めたい。英語に関しては、近年力を入れ出したところであり、ALTの数も他の市と比べると多い。担任の先生もレベルアップできる外国語活動の対策を練っている。</p> <p data-bbox="619 1771 1442 1989">小学校から基礎を固めることは大事であり、ひとつの学年で怠るとその上の学年で苦勞する。その点は今後の指導で期待できるかと思うが、気になることは、学校質問紙調査で、小学校では国語の指導として書く習慣をつける授業を行ったという回答が81.8%と、書くことを意識した授業が足りなかったという結果だ</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|--------|---|
| | 学校教育課長 | <p>が、それに対し中学校は全ての問いについてよく行ったという回答が 100%となっており、だとしたら十分成果が上がっているはずだと思う。先生が思っていることが、実際に生徒に確実に伝わり、生徒に合った指導ができているかというところが課題である。</p> <p>市内の学校数が小学校 11 校、中学校 3 校と県、全国と比べた時に分母が少ないため、1 校の回答の影響は大きい。何校かは基礎・基本に力を入れ、成果が上がってきている。活用問題はこれからというところだが、成功例が数校あるため、それらを広めながら書く習慣についても身に付け、応用力を付ける羽生市の教育を進めていきたいと考える。</p> |
| | 教育長 | <p>学校質問紙調査の結果からみると、100%先生がよく指導したというのであれば、それを受けて子ども達に 100%に近い成果が出てしかりである。そうでない結果が出ているということは、指導をしっかりと行っているのに、子ども達が悪いのだと先生が思っていないかという気がする。逆にその指導の仕方が間違っているかもしれないと言えるのではないか。先生方が意識改革しない限り、子ども達の点数や学力は向上しない。先生が良いと思うやり方で学力が向上しないなら、子ども達が悪いということにせず、教え方、指導法を変えていかなければならないという意識に改めていくことを、これからの課題にしたいと思う。昔の子ども達は一律な授業で指導できたが、今はそうではない。本当の意味でのアクティブラーニングが今の子ども達には合っている。アクティブラーニングを行うことによって、子ども達が主体的に勉強していく。今のテストは知識の導入だけでは駄目であり、知識を基にした活用力をどのような形で、先生方が子ども達に定着させるかが一番の課題ではないか。</p> |
| | 春山委員 | <p>81.8%はむしろ課題がはっきり見えて良い事ではないか。</p> |
| | 学校教育課長 | <p>先生方は一生懸命頑張ってきたが、成果が上がっていないという現実も受け止めなくてはいけない。学力向上推進委員会では、各校の主幹教諭と教務主任と、教育課程の中心となる人が集まる。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|--------------------------------------|---|
| | <p>教育長</p> <p>古市委員</p> <p>学校教育課長</p> | <p>この会議を核にして教育委員会として、各学校として「PDCAサイクル」を行う。学力向上委員会は年3回定期的に開催されてきたが、回数を増やして活性化させ、教師の意識改革、授業のやり方の改革そして子ども達の成果を上げるために、全国、県の学力・学習状況調査の結果を活かすにはどうすれば良いかを考えていきたい。</p> <p>スキルの問題も含め、どうしても先生方は多忙感が先にきてしまう。確かに忙しいが、無駄な事を辞めたらどうか。無駄な所が見つからないのは、マナー化しているから。自己を検証することにより、それが見つかるのではないか。テストのために学力向上を行っているのではないが、このテストは教育課程を検証するためのテストである。教育課程をしっかり行えばテストができて当たり前である。それができていないならば、考え方を変えていかなければいけない。「よく行った」との回答100%については、自分達は一生懸命行っている、これ以上は出来ないと、だから100%という結果になるのではと思う。各校の校長先生も危機を感じている。確かに先生方は一生懸命行っていて、決して怠けている訳ではない。今まで以上に仕事をしなさいという事ではなく、考え方を変えていこうということである。</p> <p>人事の方でも小学校の生徒指導のやり方ではまずいと、中学校の教頭先生を小学校にかなり送り込んだ。生活面ではしっかり指導し、学校の中は落ち着いてきているという成果がある。ただ、学力面で身に着けてこなかったものを挽回するのは、なかなか大変である。3年、4年生あたりの、一番基礎の大切なところを身に着けなかったことが、中学校で結果として表れてきたのかもしれない。</p> <p>落ち着きがなく、学力がついていない学年を、夏休み等をうまく使って補強することは可能か。</p> <p>各学校、各学年でサマースクール等の補充学習は行っている。特に低学力の子ども達に関して策を講じなければいけないため、思案中である。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|--------|--|
| | 岩本委員 | <p>先生方は熱意を持って行っていただけていると思っており、それを前提としての発言であるが、個人レベルでの変革、また組織としての変革が求められていると思う。具体的にどのように変革していくかは、教育委員会でも具体的な事例を紹介する等、助力していただけたら有難い。報告事項 14 の絵本の読み聞かせについては、長い目で見れば学力に結びつくと考えられ、大変良い事であると思う。子どもが小さいうちに親を巻きこんで教養を深めることが色々な意味で将来の学力向上の具体的な策に繋がると思う。積極的なPRをお願いしたい。</p> |
| | 学校教育課長 | <p>教務主任・主幹教諭の自覚を高めることが大切であると考え、学力向上推進委員会の開催回数を増やす。自覚が高まっても、方策が分からないこともあるかもしれない。そこで、教務主任を対象にした学力向上のためのスキルアップの方法論の研修を行っていこうと考えている。教務主任の自覚が高まれば、学校として流れて行くであろう。それにより子ども達が「わかった」と言える授業を行っていくことを軸にして家庭学習や補修学習も行っていきたいと考えている。</p> |
| | 岩本委員 | <p>一人一人が自分を見つめていくことは、とても難しいことになると思う。先生方が抱えている課題と本音を声に出していただき、そのことについて組織として具体的に取り組んでいく。教育委員会が味方となり、先生自身もそう思ってくれないと、表に出してくれない。質問紙調査の 100%は先生方が言えない何かを抱えている可能性もあるかもしれない。先生方も子ども達を見て、何か感じているものは必ずあると思う。内面から変えていくには、まず本音を引き出していかなければ、結果的に表面的なことで終わってしまうと思う。腹を据えて現場の先生と向き合っていかなければいけないと思う。</p> |
| | 教育長 | <p>岩本委員の発言の中で、先生方の本音を聞き出してとあったが、たぶん本音はテストに対するアレルギーであろう。テストを批判的に見ていて、特に中学校のテストは、業者テスト感があるため、そのような見方をしてしまう。しかし、このテストは業者テスト</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|---|---|
| | <p data-bbox="480 1003 596 1032">学校教育部長</p> <p data-bbox="480 1576 596 1606">古市委員</p> | <p data-bbox="619 331 1447 936">とは違い、教育課程の中身を検証するテストであるという認識が必要である。もうひとつは、精一杯仕事をしているのに、仕事の量をこれ以上増やさないでほしいということ。しかしそれは、子どもを視点に考えていない。この状態で卒業させてしまうのは自分の責任であるという部分が無い。これは、なかなか解消出来ない大きな問題である。大変な事は大変であり、学校の先生が忙しくないと言ったらおかしいことになるが、多忙感を持ってしまうと、子ども達のために何にもできなくなる。子ども達のために全てのエネルギーを注ぐという気持ちをもっていれば、多忙感は無いはずである。情熱の注ぎ方は、教育観に関わってくる。場合によると、校長先生から、教育委員会から、ある程度指示しなくてはいけない部分も出てくる。地域格差や経済格差などとは言っていられないと思う。</p> <p data-bbox="619 1003 1447 1509">調査を行ったのは、国語、算数・数学、これに加え全国では理科、県では英語を実施しており、それらの教科で羽生市は点数が低いことは間違いない。一部の教科の結果のみで、何とかしなくてはならないということになると、中学校の場合は、国語や数学の先生のみ負担がかかり、組織として取り組むことは難しい。その点、小学校の方は、各先生がすべての教科を教えているため、組織的な取組が出来る。中学校理科については3校の平均が結果として表示されているが、実は県、全国よりもはるかに上回る学校がある。これは先生方が指導法を非常に工夫している成果である。まずは、小学校のテコ入れが必要ではないか。中学校は組織的に取組むために、やり方自体の研究が必要だと思う。</p> <p data-bbox="619 1576 1447 1989">テレビのコマーシャルで、どのような物が生き残るかは、強いものが生き残るのではなく、変わるものが生き残り進化を遂げるというものがあつた。学校の先生もマンネリにならないように行っているが、反面、自分の積み重ねてきたものに自信があるからこそ、子ども達に教えられるのだと思う。積み重ねてきたものを捨てることは、非常につらいと思う。先生同士で違うと思っても、その先生が積み上げたものを否定するとなると、これまで懸けてきたものを否定することになり、言いたいけど言えず、結果アンタッチャブルになり過ぎているところがあると思う。変わ</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|--------|--|
| | 教育長 | <p>ることは本当に苦しいと思うが、それをやらなくてはいけない。個々の先生がそれを行うのは容易ではないことを、教育委員会、校長、教頭、教務主任とも分かった上で支えていかなければ進んでいかないのではないかと思う。</p> <p>埼玉県 averages 平均点より下ということは、羽生市よりもっと上が沢山いるということである。羽生市が県の平均点を下げているということも言え、県の平均点が全国平均に近づけなかったのは、羽生の責任でもある。それ位の感覚を持たなければいけないのかもしれない。多忙感があるのであれば、少しでもそれを減らし、違う方法で行ったらどうかと色々工夫を凝らすしかない。市内でも全教科、埼玉県の平均点より上の学校がある。市内の格差も解消していけるよう努力しなくてはいけない。教育委員会では既に意識改革をするための方策をいくつか実施している。タブレットの使用等いろいろな形で工夫を凝らし、子ども達の興味関心を高め、理科では成果があがってきている。あとは先生方の意識の改善と指導法の工夫である。義務教育が終わる子ども達に対し責任を持って卒業させているかどうか、中学校2年生以下の担任、小学校の先生も中学校を卒業するまでの責任を感じているかどうかの大事ではないか。その辺りを強調しながら、これから変えていかなくてはならないと思う。</p> |
| | 春山委員 | <p>報告事項 4 不登校について、先日小学校の暴力行為が過去最高という報道があったが、羽生市の場合はその前に手を打ち、中学校の教頭先生が小学校に配置されたり、小学校の5、6年生も落ち着いており素晴らしことだと思った。</p> |
| | 学校教育部長 | <p>子どもが暴れてそれを抑えようとして殴られた、蹴られたという状況を暴力行為とされた事例がある。昔では分からなかった、多動性、発達障害等の子どもがパニック状態になり抑えようとした先生に暴力を振るったことが多い。羽生市では発達障害等の子どもが年々増えているのではないかという状況であり、特別支援教育における情報収集と対応は他の市に負けないうらい行っている。先生方がうまく対応しており、ある程度抑えられている。実際、いつ暴れるかもしれない子がいることは事実である。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|--|-----------------------------|---|
| <p>日程第3 協議事項1 平成28年度当初教職員 人事異動の方針（案）</p> | 春山委員 | <p>これまで中学校であった暴力行為が低年齢化して小学校に降りてきたということではないのか。</p> |
| | 学校教育部長 | <p>それもあるかもしれないが、それよりも発達障害等の子が増えている。</p> |
| | 教育長 | <p>発達障害の認識がなければ、暴力行為と捉えてしまう。それほど子ども達の暴力行為が低年齢化しているとも思えない。あるとすれば、教育方針等で子どもを自由にさせており、他人をいじめたり、殴ったり、そのような行為を許してしまう家庭があれば、それが学校でも出てくることはあり得るかもしれない。家庭でのある程度のしつけがしっかりしていないと、それが障害を持っている子どもなのかすら分からなくなる。</p> |
| | 石井委員長 | <p>報告事項について、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p> |
| | 石井委員長 | <p>協議事項1について、学校教育課長より説明を求めた。</p> |
| | 学校教育課長 | <p>羽生市教育の一層の充実発展を図るため、埼玉県教育委員会の「平成28年度当初教職員人事異動の方針」及び「平成28年度当初市町村立小・中学校等教職員人事異動方針細部事項」、県の方針細部事項を踏まえ、羽生市教育委員会の人事異動の方針をたてている。県の方針は昨年度と変更がなく、内容の主なもの、同一校在籍3年未満の者は原則として異動を行わない、新採用職員は採用後5年以内に異動を行う、同一校における勤務年数の長い者については積極的に異動を行う等である。</p> |
| 石井委員長 | <p>協議事項1について、質問・意見を求めた。</p> | |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|---|--------|---|
| <p>日程第4 議案第48号 羽生市いじめ問題調査審議会委員の委嘱について</p> | 教育長 | <p>昨年と変わらないが、ベテランの教員が段々少なくなり、若い先生がどんどん増えてきている流れの中で、学校経営を上手く行うためには、バランスをしっかりと取らなければいけないと思う。年齢的なバランス及び指導力のバランスを考えながら、今年度も人事を行っていきたいと思う。</p> |
| | 石井委員長 | <p>協議事項1についてはよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p> |
| | 石井委員長 | <p>議案第48号について、学校教育課長より説明を求めた。</p> |
| | 学校教育課長 | <p>昨年から発足した、いじめ問題調査審議会の委員の委嘱期間は2年であるが、そのうちのPTA関係者である委員が、PTAの役職を辞めたため、PTA連合会からの推薦を受け、委嘱を行うものである。任期は、残任期間の来年3月31日までとなる。</p> |
| | 石井委員長 | <p>議案第48号についてはよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p> |
| | 石井委員長 | <p>議案第48号は可決された旨、宣した。</p> |
| | 石井委員長 | <p>次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。</p> |
| | 教育総務課長 | <p>10月臨時定例教育委員会を10月1日午前11時より教育委員室にて開催する。10月定例教育委員会は、10月8日午後3時より教育委員室にて開催する。</p> |
| | 石井委員長 | <p>閉会を宣した。</p> |

| 会議事件名 | て ん 末 | |
|-------|-------|---|
| | | <p>委員長 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>委 員 _____</p> <p>書 記 _____</p> |